

本校は、木山町、津森村、福田村の中学校組合立木山中学校を前身として、昭和26年、初代校長 木村義泰先生が赴任されてから67年目にあたる、伝統ある学校です。

校区は、熊本市の東部に位置し、県道熊本・高森線が町の中心部を通り、また、町の北側には第二空港線が東西に走り、人や物流の大きな流れを支えています。阿蘇くまもと空港周辺には、テクノポリスセンターや東海大学宇宙情報センターがあり、最先端の情報工学拠点があるとともに、益城台地には農業用ハウスが広がり、スイカ、メロン、サツマイモ、タバコ等が栽培され、町の代表的な農産物を生産しています。また、役場、文化会館、総合体育館、町民グラウンド、陸上競技場、交流情報センター等の公共施設も校区内に多数あり、長く益城町の経済の中心地としての役割を担ってきました。

さて、平成28年4月の熊本地震で益城町では、尊い命、建物を失い、そして心にも大きな傷を残しました。木山中学校も、渡り廊下の崩壊や体育館への被害等、大きな被害を受けました。家での生活も、学校での生活も、当たり前前が当たり前でなくなり、当たり前を大切にしなければならぬと体で実感しました。

しかし、生徒たちは、自分が被害にあいながらも避難所等でのボランティア活動に励み、益城町の皆様の心を元気づけてくれました。このように生徒たちは、日本全国の皆様から励まされ、震災からの復興を一步も二歩も踏み出してくれました。

校舎においても、渡り廊下の復旧工事が始まり、本年末には完成予定となっています。工事の音が授業中に聞こえますが、この音を木山中学校の「復興の音」としてとらえ、生徒たちは日々学習に頑張っています。このように校舎も地震前の姿を取り戻そうとしており、本当に感謝で一杯の気持ちです。

本校では、「三綱領」の「親和協同」「自主創造」「努力実践」を基本目標とし、学校教育目標「自立心と共生の心を持ち、夢実現に向けて、努力し続ける生徒の育成」の具現化を図り、徳・知・体のバランスの取れた生徒の育成を目指しています。

今年は「学校、先生、友達、家族が自分に何かをしてくれるだろうと期待するのではなく、学校、友達、家族そして自分自身のために、何ができるのだろうか、何をすべきなのだろうか」を考え、行動できるようにしてほしいとの願いを込め、さらに一步ステップアップし、「木山中生徒は復興に参加する」を合言葉に、地域の皆様、保護者の皆様と共に「夢を語り、夢を育てる学校づくり」へ邁進していきたいと思えます。

益城町立木山中学校

校長 河瀬清彦